

第10節 国際化への対応

～グローバルな消防へ～

- 海外で発生した災害に対し、職員を救助隊員として派遣
- 644人の外国人を視察で受入れ
- 東京都在住または滞在中の外国人向けの安全・安心に関する情報を発信

1 国際協力

(1) 国際緊急援助隊（JDR）

昭和60年9月19日のメキシコ大地震及び同年11月14日コロンビア共和国で発生したネバド・デル・ルイス火山噴火により甚大な被害が発生したことを契機として、昭和61年4月1日、自治省消防庁（現総務省消防庁）が中心となり、国際消防救助隊を発足し、昭和62年には「国際緊急援助隊の派遣に関する法律」が施行され、平成2年以降は国際緊急援助隊として、22回世界各地の被災地へ派遣しています。（図表2-10-1）

■ 図表2-10-1 派遣状況

	派遣年月日	被災地	被害状況	東京消防庁 派遣実績
1	昭61.8.27（11日間）	カメルーン共和国	死者1,700人以上	1人派遣
2	昭61.10.11（10日間）	エル・サルバドル共和国	死者1,226人	5人派遣
3	平2.6.22（11日間）	イランイスラム共和国	死者80,000人以上	5人派遣
4	平2.7.18（9日間）	フィリピン共和国	死者1,600人以上	2人派遣
5	平3.5.15（23日間）	バングラディシュ人民共和国	死者130,000人	17人派遣
6	平5.12.13（8日間）	マレーシア	死者48人	6人派遣
7	平8.10.30（8日間）	エジプト・アラブ共和国	死者64人	3人派遣
8	平9.10.22（21日間）	インドネシア共和国	焼失面積18,000ha	19人派遣
9	平11.1.26（10日間）	コロンビア共和国	死者1,171人	8人派遣
10	平11.8.17（8日間）	トルコ共和国	死者15,370人	12人派遣
11	平11.9.21（8日間）	台湾	死者2,333人	18人派遣
12	平15.5.22（8日間）	アルジェリア民主人民共和国	死者2,266人	8人派遣
13	平16.2.25（6日間）	モロッコ王国	死者628人	4人派遣
14	平16.12.29（23日間）	タイ王国	死者229,866人	23人派遣
15	平17.10.9（10日間）	パキスタン・イスラム共和国	死者73,338人	6人派遣
16	平20.5.15（7日間）	中華人民共和国	死者69,227人	6人派遣
17	平21.10.1（8日間）	インドネシア共和国	死者1,117人	6人派遣
18	平23.2.22（19日間）	ニュージーランド	死者181人	16人派遣
19	平27.4.26（14日間）	ネパール連邦民主共和国	死者8,896人	6人派遣
20	平29.9.21（8日間）	メキシコ合衆国	死者369人	6人派遣
21	平30.2.8（3日間）	台湾	死者17人	2人派遣
22	令5.2.6（10日間）	トルコ共和国	死者50,000人以上	6人派遣

令和4年度には、トルコ共和国で発生した地震災害に国際緊急援助隊救助チームを派遣し、国際貢献を果たしています。



▲羽田空港にて実施した結団式



▲被災地空港に到着（JICA提供）



被災地での救助活動（JICA提供）



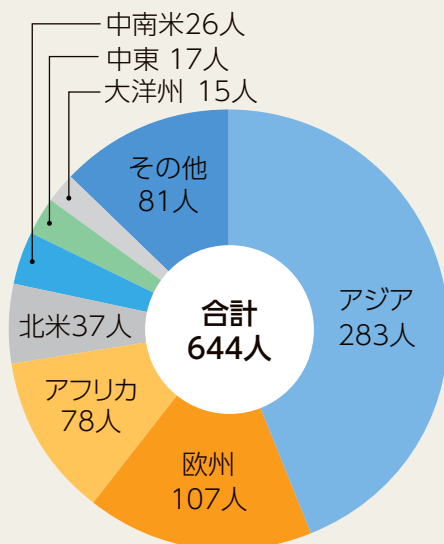
（2）海外消防関係者等への対応

東京消防庁は、日本の首都東京の消防防災機関として海外からの関心が高く、毎年多数の海外消防関係者等が当庁を訪問しています。その目的は、情報収集や知見の交換、関係促進に加え、人命救助技術等の実技を伴う研修の受講など多岐に及びます。

また、平常時の海外消防関係者との交流が、緊急時の連携の強化につながるとともに、職員の外国人対応能力等の向上にもつながっています。

令和7年中は、644名の海外消防関係者等が当庁を来訪しました。世界の様々な国と交流しています。（図表2-10-2）

■ 図表2-10-2 令和7年中
地域別・外国人の受入数





▲ 駐日ブルキナファソ大使が消防総監への表敬訪問を行い、意見交換及び当庁施設の視察を行った。



▲ フィンランド消防士協会の職員が消防学校の視察を行った。

2 国際会議への参加

海外消防本部の最先端の技術や消防機器の情報収集、当庁の持つ技術・知識に関する講演、海外消防本部の幹部との情報交換などを目的に、当庁職員が国際会議等へ参加しています。

令和7年中は、IAFC 国際消防長協会年次総会（アメリカ）、シンガポール国際災害緊急管理会議（シンガポール）、新北市災害管理国際会議 2025（台湾）等の国際会議に参加し、海外の最新の消防情報の収集及び東京のプレゼンス向上に注力しました。



▲ シンガポール民間防衛庁長官等、アジア各国の消防関係者と情報共有を行ったシンガポール国際災害緊急管理会議



▲ 世界各国の消防長等と意見交換を行い、当庁の今後の施策の検討材料を収集した国際消防長協会（IAFC）年次総会



◀ 台湾新北市災害管理国際会議 2025 にて、当庁のDX 推進施策についての講演を行った。

3 東京都在住または滞在中の外国人への対応

(1) 安全・安心に関する情報の発信

ア ハンドブック

都内在住の外国人の方や、東京を訪れた外国人旅行者の方が安心して生活、滞在できるように119番通報要領や地震に対する備えなどを、やさしい日本語と4か国語（英語、中国語、韓国語、ベトナム語）で紹介するハンドブックの情報を東京消防庁ホームページで公開しています。



イ 大使館向け防災情報の配信

東京都内には、約160の大使館等が存在しており、自国民の保護等の役割を担っています。当庁では、その役割に注目し、令和8年4月現在、121の大使館等に対して定期的にメールマガジン形式で防災情報発信をしています。その内容は、日本の消防制度や東京消防庁の各種取組、そして大使館等を管轄する消防署からのイベント

情報や地域特性に即した防災情報などにより構成されています。

大使館等関係者からは、地域の消防署からの情報はとても有益であるとの意見を受けており、引き続き、東京都在住または滞在中の外国人の安全・安心に寄与できる情報を提供していきます。

(2) コミュニケーション支援ツール

ア 救急ボイストラ

都内の外国人が安心して滞在できる環境を整備するため、令和4年7月から全救急隊に、多言語翻訳アプリ「救急ボイストラ」を配置しています。

「救急ボイストラ」は、国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）と総務省消防庁消防研究センターが、多言語音声翻訳アプリ「VoiceTra」を基に開発した救急隊

用の翻訳アプリです。30言語の音声翻訳に対応し、その内の15言語については、救急現場で使用頻度の高い会話内容が定型文として登録されており、外国語による音声と画面に表示される文字によりコミュニケーションを図ることが可能です。

（図表2-10-3）

■ 図表2-10-3 外国人傷病者搬送人員の推移

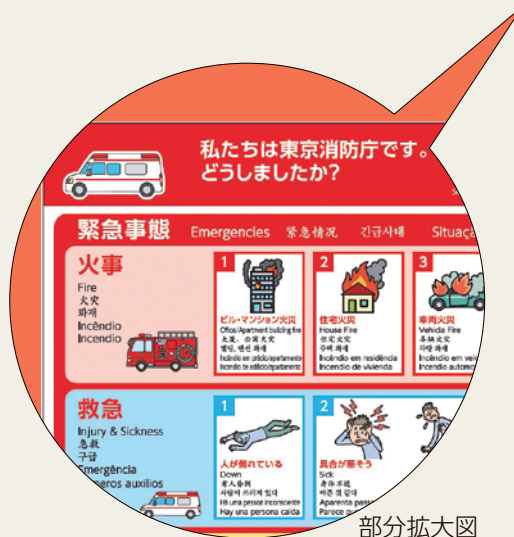
	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
搬送人員	11,619	14,403	19,758	22,130	24,614

イ コミュニケーション支援ボード

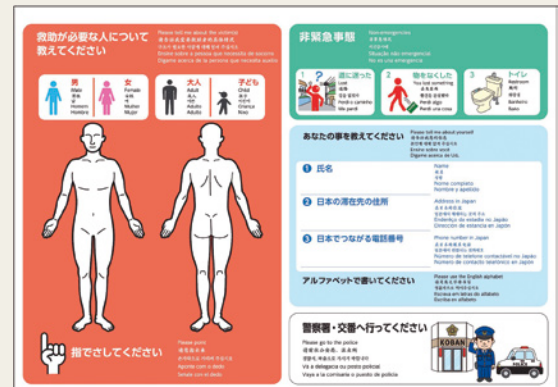
今後増加が見込まれる東京都在住または滞在中の外国人が直接消防署窓口へ通報する際に円滑なコミュニケーションがとれるよう、外国語（5か国語）、イラスト、ピクトグラムを活用したコミュニケーション支援ボードを各消防署の受付に配置しています。



表



部分拡大図



裏

ウ 多言語通訳支援業務

日本語を話すことのできない方からの119番通報に応えるため、英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語について通訳を含めた3者通話が可能となっています。

